

## 近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

## 第 142 号

## 目次

1. サッパボイラ：蒸気機関車補修作業の見学会・・・1
2. 2025 年度総会（予告）・・・・・・2
3. 総会「議決議案 賛否記入書」提出のお願い・・・・2
4. 学会誌『近畿の産業遺産』第 19 号 原稿募集・・・・2
5. 2024 年度年次大会報告・・・・寺島俊之・・・・2
6. 「神鋼鋼線工業：ワイヤロープ製造工程の見学会」  
見学記・・・寺島俊之・溝口孝遠・二階堂達郎・・・・3
7. 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねるアジア・アフリカ・  
オセアニアの橋』・・・・・・5
8. 学会誌の電子ジャーナル公開について・・・・・・6
9. 2024 年度第 4 回役員会議事録・・・・・・6
10. 退会者・・・・・・6

## サッパボイラ：蒸気機関車用ボイラ補修作業の見学会

本会は、2024 年 3 月にボイラメーカー・株式会社ヒラカワの滋賀事業所を訪問し、ボイラの展示と製造現場を見学させていただきました。今回は、その見学を引き継ぐ形で、株式会社サッパボイラ社の工場を訪問し、蒸気機関車用ボイラの補修作業を見学させていただきます。

同社は、ボイラやごみ焼却装置などの設計・製作・据付などの事業を行っています。

創業者は、山田曾太郎で、長崎海軍伝習所でボイラに関する技術を習得し、大阪鐵工所（後の日立造船、現カナデピア）で就労。その後、颯波家の婿養子となり、1918（大正 7）年、颯波鐵工所（代表者は曾太郎の息子、颯波寿）を創業し、ボイラの製造と修理を開始しました。合資会社、合名会社を経て、1948（昭和 23）年、株式会社（代表者は曾太郎の孫、颯波鐵三）を設立しました。

1928（昭和 3）年、鉄道省大阪鉄道管理局に水管式ボイラを納入し、以後、鉄道省、日本国有鉄道との取引が始まり

ます。大戦までは、産業用蒸気機関車を製造していました。戦後、日本最初期の炉筒煙管式ボイラをホテルに納入するなど、事業を拡大しましたが、不況の影響を受けて経営難に陥るなどの紆余曲折を経て、1969（昭和 44）年、現在の会社となりました。

鉄道各社の蒸気機関車用ボイラのメンテナンスを担う数少ない事業者として貴重な存在となっています。

わが国では、19 世紀末、三菱神戸造船所、大阪鐵工所、汽車製造などの大企業がボイラの製造を始めましたが、20 世紀に入ると個人経営の専門メーカーが相次いで創業し、颯波鐵工所もそのひとつでした。これら大阪の専門メーカーは、大阪鐵工所の技術を多分に受け継いでいました。また、材料・製品の運搬に舟運を利用するため、新淀川左岸にあった長柄運河沿いに立ち並んでいました。現在も、(株)サッパボイラと(株)ヒラカワが本社を置いています。

当日は、工場で補修中の蒸気機関車、C57 形 1 号機（SL やまぐち号、西日本旅客鉄道株式会社）と S-304 号機（三笠鉄道記念館、三笠市）を、工場長の解説をいただきながら見学させていただく予定です。

開催日：3 月 14 日（金）

集合：阪急電鉄「中津」駅・改札口、13 時 00 分

神戸線は普通のみ、宝塚線は普通と準急が停車します。京都線の列車は停車しません。

見学先：(株)サッパボイラ本社工場（大阪市北区中津 3 丁目 25 番 16 号）

見学時間（予定）：13：20 頃から約 2 時間。

費用（資料代）：500 円

参加希望者は 3 月 10 日（月）までに事務局宛にメールか FAX でお申し込み下さい。

※見学時はヘルメットを着用します。会社でも用意していただきますが、個人でおもちの方はご持参ください。



写真1 C57形1号機 (撮影：24/12/10, 二階堂達郎)



写真2 S-304号機 (撮影：24/12/10, 二階堂)

### 2025年度総会行事 (予告)

今回は、総会と見学会を連続する別の日程で開催します。

見学会で訪問する神鋼鋼線工業(株)は、尼崎市に本社を置き、(株)神戸製鋼所から線材の供給を受けて、二次製品のPC鋼材・鋼線・ワイヤロープなどを製造しています。同社は、1917(大正6)年、尼崎市で設立された乾鉄線(株)を神戸製鋼所が買収し、その尼崎工場が分離して設立されました(1954(昭和29)年)。昨年11月に同社のワイヤロープ製造工場を見学、今回はそれに引き続くもので、本社・尼崎事業所を訪問、主力製品であるPC鋼材や鋼線の製造工程を見学させていただきます。

これらの製品は、高張力が特徴で、橋梁・道路・建築などのコンクリート補強用や吊り構造用のケーブルや、ワイヤロープ、ネジ・ボルト・バネなどの部品など広く使用されています。

これらの鋼材・線材は、強度・靱性(粘り強さ)・強度・耐食性などを高めた「高性能鋼」と総称される鋼材のひとつです。製鉄所から供給される鋼線材を伸線工程および熱処理によって、組織と強度特性を調節し、表面処理、加工処理などを施すことによって製造されます。これら高性能鋼からなる製品は、橋梁・道路などの社会インフラ、船舶・

自動車・電車車両・産業機械・エネルギー分野などで広く使用され、なくてはならない存在となっています。

わが国では、材質の高度化は、刃物などの鍛冶製法(鍛造)においても高性能化は古くから試みられてきましたが、経験の積み重ねに頼るところが大でした。西欧においては、この技術は、金属に対する科学的知見の深耕と19世紀からの産業革命を通じた工業生産手段の整備により進歩を遂げました。わが国の技術は、戦前は、全体として立ち後れていましたが、戦後、急速に技術を高めるに至りました。

今回の総会・見学会ではこの歴史を振り返るとともに、今後の学会活動に、鋼をはじめとする金属の主な特性と用途、製造にも焦点を当てていく契機となるようにします。

前日の見学会：4月18日(金)

・集合：阪神電鉄「武庫川」駅・東改札口(2番線・神戸方面プラットホーム側)、12時45分

阪神バス「武庫川」バス停13:05発のバス[30系統]に乗車、「中浜」バス停(13:12着)で下車、歩いてすぐ。バス運賃：240円。

・見学先：神鋼鋼線工業(株)・尼崎事業所(本社)  
(尼崎市中浜町10番地1)

講演会の開催日：4月19日(土)

挨拶：中山会長、司会：岡田副会長

会場：尼崎市立歴史博物館・講座室(3階)

・会場受付開始：13:00

講演会に先立って、本会の総会議案に関する報告や質疑応答の時間(13:00~13:20)を設ける予定です。

講演会は、尼崎市立歴史博物館との共催で開催します。

・講演会：13:30~(予定、質疑応答を含む)  
[未定]

・研究発表講演会：(未定)

[講演者募集中]

費用：梗概・見学資料集代：500円

参加希望者(オンライン参加も含む)は4月14日(月)までに、事務局宛にメールかFAXにてお申し込み下さい。  
研究発表講演者募集 申込締め切り日：4月5日(日)  
詳細は次号でご案内します。

#### 総会「議決議案 賛否記入書」提出のお願い

昨年度総会での議決により改訂された会則に基づいて、総会議案を書面によって議決します。

同封または添付した「議決議案 賛否記入書」を、総会行事への出席・欠席にかかわらず、提出してください。

【メール配信で本紙を受けとっておられる会員】

配信メールの記入欄に記入の上、メールで事務局宛に4月14日(月)までにご返信ください。

【郵送で本紙を受けとっておられる会員】

同封はがきの記入欄に記入の上、4月14日(月)までにご投函ください(当日の消印有効)。

総会の開催当日、総会議案にかんする説明と質疑応答の時間を設ける予定ですので、ご出席ください。

## 学会誌『近畿の産業遺産』第19号 原稿募集

『近畿の産業遺産』第19号の原稿を募集します。多くの会員の投稿をお待ちしています。奮ってご応募下さい。資料の紹介など、論文形式ではないものでも結構です。

### ・申込締切日：

調査報告・研究ノートなど、論文以外；2月28日  
論文（査読付き）の受付は終了しました。

## 2024年度年次大会報告

寺島俊之

- ・開催日時：12月7日(土)
- ・会場：尼崎市立歴史博物館3階講座室  
司会：岡田副会長  
参加者：17名

### 特別報告（13：00～13：10）

「阪神電鉄旧尼崎発電所の解体問題をめぐって」

中山嘉彦氏(本会会長)

同発電所の解体工事着工の報道を受けて、2024年11月21日、「ひょうごヘリテージ機構H<sub>2</sub>O」と連名で「旧尼崎発電所建屋の保存にかんする提言書」を所有者である阪神電気鉄道株式会社に提出した。しかし、大会当日、解体作業が開始されていることが報告された。

### 講演（13：10～13：50）

「糸ヘン金ヘン産業と尼崎」

桃谷和則氏(尼崎市立歴史博物館学芸員)

1889(明治22年)に創業した尼崎紡績は、崎が工業都市として発展する契機となり、戦前には東洋紡や鐘紡の工場も現尼崎市域に所在した。また、金井トラベラー製造所や日本スピンドル製造所などの紡績部品産業も所在していたのが戦前の尼崎の糸ヘン産業の特徴であった。

しかし、戦災により市域の紡績工場はほぼ姿を消し、跡地は公園や県営住宅に変容していった。また、紡績部品産業も業態転換等が進み、現在は尼崎には糸ヘン産業はほぼ皆無となっている。

大正期に始まった尼崎の金ヘン産業は、昭和初期に浅野財閥が行った尼崎築港による埋立地に大規模な鉄鋼工場が建設され、戦後は鉄の町尼崎として発展していった。しかし、尼崎を代表する鉄鋼メーカーであった尼崎製鋼・尼崎製鉄は神戸製鋼所に吸収され、1987(昭和62)年に操業停止となった。その跡地は「尼崎21世紀の森・中央緑地」に変貌した。講演後、映像「工業のまちあまがさき1963年」(約11分)が放映された。

### 特別講演会（13：50～15：15）

「京都・東大阪・泉南における伸線業の源流と展開」

溝口孝遠氏(本会会員、元(株)神戸製鋼所機械研究所長)

伸線業とは、「主として外部調達による線材やバーインコイルから線引きによって鉄線、硬鋼線、ピアノ線等を製造する」業種である(日本標準産業分類による)。

今回は伸線業の成り立ちを以下に記載する四つの要素に分解して考察した。そして、各構成要素を京都・東大

阪・泉南の各地域ごとに評価を行う手法によって全体像を描くことを試みた。

### 【製品技術・生産技術の構成要素】

- ・起業の礎となる産業・技術
- ・市場ニーズ
- ・使用動力
- ・原材料調達

総合評価の結果、京都では製造販売が一体の自社ブランドに特徴があるが、東大阪では受注生産による賃加工と短納期の試作品が得意な点が特徴と判明した。一方、泉南では繊維ロープ製造から進化させた技術力でワイヤロープ製造に取り組んだが、最初から電気動力という点に特徴があった。

動力源を水力から電力に転換すると、初期投資に加えて生産能力の増大に起因する在庫保管の問題も発生する。

こうした事情から大量生産に見合った販路を確保できた企業が事業を拡大できた一方、維持費用のみで済む水車動力工場はニッチ市場で生き残りを図ったと考察した。

### 研究発表講演会（15：30～16：30）

「明治に洋服を着た女性たち：明治期紡績業の洋装化についての一考察」

甲南大学経営学部・平野ゼミ生(大國愛佳・武田留佳・松本航太郎・若林夏帆)

連名者：平野恭平氏(本会会員)

明治期の紡績工場を描いた錦絵や、撮影した写真にみられる人物の服装から、明治期における女性労働者の作業着を考察した。

服飾史では、そもそも工場作業着を取り上げた研究が少なく、紡績史の研究でも、あまり取り上げられることはなかった。そのような中で、希少な実証研究として、富岡製糸場における以下の変遷を明らかにしたものがある。

和服(袴)→和服(着物)→改良服→洋服

従来の紡績史でも、明治期の和服から大正期以降の洋服というイメージで理解されてきたが、今回の研究では、紡績工場を経営形態(官営・民営)と立地(関西・関東)で分け、錦絵や古写真から作業着の特徴を抽出した。その結果、作業環境や作業内容に適した服装は、洋装作業着であり、明治期にその試みがみられたが、十分に進展しなかったことが示された。

今後は、大正期以降の紡績工場における女性労働者の洋装作業着について、現場管理や労務管理との関連性を考えながら作業着(制服)の調査と考察に取り組むと結んだ。

### 「神鋼鋼線工業：ワイヤロープ製造工程の見学会」

#### 見学記

寺島俊之、溝口孝遠、二階堂達郎

11月20日(水)、表記の見学会を開催した。

#### 【見学先と見学行程】

・神鋼鋼線工業株式会社・生産本部ロープ製造所二色浜地区：13:30～16:50

オプション見学を予定していた南海本線「蛸地蔵」駅（1925(大正 14)年築、国登録有形文化財）は、日没のため中止した。

南海本線貝塚駅に 12:45 に集合。参加者は 13 名であった。駅東口からバスに乗り、最寄りのバス停で下車して、徒歩で神鋼鋼線工業(株)二色浜地区に向かった。

同地区は、大阪府港湾局（現大阪港湾局）が貝塚沖合を埋め立てて造成・整備した「二色の浜産業団地」内に所在する。同団地は、阪南港の阪南 4 区（1990(平成 2)年 2 月竣工）に属しており、貝塚市内の製造業などが移転している。なお、埋立地の南部（阪南 6 区）は、沿岸部の埋立地（阪南 5 区）とともに阪南港に含まれていない。利用した水間鉄道バス・コスモスライナーが、貝塚駅を起点に、連絡橋（二色大橋）を通り、埋立地を周回している。

今回の見学会は以下の 4 点を主な目的とした。

- ・伸線およびワイヤロープの技術と需要の歴史・変遷と神鋼鋼線工業殿の取り組みの概要を知る。
- ・鋼線の伸線工程および鋼線ワイヤロープの製造工程を見学する。
- ・PC 鋼材の製造および施工の概要、用途などについての知見を得る。
- ・ワイヤロープ業界の歴史、生産量の推移、競合などの概略を知る。

専務取締役(生産本部長、開発本部長、技術総括担当)である森啓之様並びに技術部長である羽木克昌様に出迎えて頂き、事務厚生棟・会議室で概要説明を受けた後に構内を見学した。

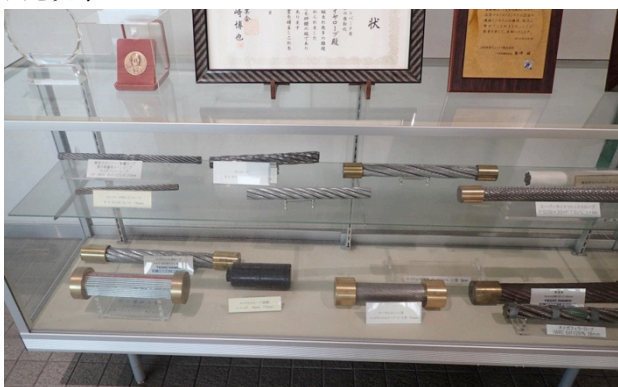


写真 1 各種ワイヤロープの展示

(撮影：24/11/20, 二階堂達郎)

## 1. (株)神戸製鋼所および神鋼鋼線工業(株)の概要と沿革の紹介

概要説明では、最初に、当社に原材料である圧延線材を供給している(株)神戸製鋼所の線材への取り組みについての説明があり、線材の生産量などについての紹介があった。

神戸製鋼所には加古川製鉄所内に第 8 線材工場、神戸製鉄所内には第 7 線材工場が稼働している。当社は主に加古川製鉄所の第 8 線材工場から線材の供給を受けている。

次いで、神鋼鋼線工業(株)（本社尼崎市）殿の沿革および会社概要の説明があった。

当社は、1917(大正 6)年に尼崎で創業した乾鉄線(株)（後に日本鉄線鋼索(株)と改称）を 1943(昭和 18)年に(株)神戸製鋼所が買収し、神鋼鋼線鋼索(株)とした時に始まる。

製品構成や生産量の推移・シェアなどについても説明があった。

技術開発部門、ロープ事業部門、PC 鋼線事業部門、バネ特線事業部門、エンジニアリング事業部門で構成されており、夫々の部門の製品や特徴などの紹介があった。

ワイヤロープについては、当社と東京製綱とで国内シェアを分け合っている状況のようであるが、玉掛用などの低価格製品については中国、韓国、台湾からの輸入品が入って来ている。

当社としては超高層ビルのエレベータ用ロープや PC 鋼材を用いた建造物、長大橋や大型建造物の吊り屋根のエンジニアングなど、高付加価値案件に注力している状況が伺えた。

## 2. 泉南地区におけるロープ産業と二色浜地区の成り立ち

泉南をベースとしていた旧帝国産業(株)（後の(株)テザック）との関りを含めた当社二色浜地区の成り立ちについても紹介があった。

二色浜地区は(株)テザックワイヤロープを 2018(平成 30)年に吸収合併した事業所である。

泉南地区におけるワイヤロープ産業は 1907(明治 40)年に創立した泉州織物(株)が源流とされる。その 2 年後には貝塚製綱所がロープ製造を開始した。当初の製品は繊維ロープと推察される。1918(大正 7)年には関西製綱(株)が鋼線ロープの製造を開始した。

昭和初期には、海上輸送によって対岸の神戸製鋼所で生産された線材の搬入に利便性が良いこともあり、ワイヤロープが泉州地域の地場産業に成長した。

なお、二色浜地区の前身企業である(株)テザックは 1988(昭和 63)年に帝国産業(株)から改称していたが、同社は泉州織物(株)、関西製綱(株)、東洋麻糸紡織(株)、佐野紡績(株)の 4 社が 1943(昭和 18)年に合併した企業である。

(株)テザックは二色浜地区には 1995(平成 7)年に鋼線ロープと繊維ロープの事業所として進出したが、鋼線ロープ事業は 2018(平成 30)年に神戸製鋼所に事業譲渡され、繊維ロープ事業のみが(株)テザックとして現在に至る。

## 3. ワイヤロープの技術と歴史

次いで、紀元前から始まり、現在に至るロープの歴史、技術の変遷の概略が判り易く解説された。

一般的なロープは心綱の周りに 6 本のストランドを撚り合わせて製作される。ストランドとは数本から数十本の素線を単層または多層に撚り合わせた線である。

素線をストランドに撚る際の素線の断面形状・寸法・本数・撚り方、ストランドを更に撚ってワイヤロープに成形する際のストランドの本数や撚り方等々により、柔軟性や耐久性、非自転性などに関わる広範な特性が現れる。

このように、主要な構成部品は心綱、素線、ストランドの3要素に集約されるので、各構成要素の品質向上と撚り合わせ技術の向上がロープ製造の要である。

材質面では、ピアノの弦に求められる特性から始まり、ニューヨーク ブルックリン橋、ケーブルカーなどで必要とされた高炭素鋼高強度線材のニーズと高炭素鋼線を加工する際のパテント熱処理技術の重要性についても言及された。

#### 4. PC 鋼材について

今回の見学会に先立ち、会員の中から PC 鋼材についてもその用途などを知りたいとの要望があり、二色浜地区は PC 鋼材は生産していないが、要望に応じていただいた。

PC 鋼材とは、プレストレストコンクリート (Prestressed Concrete) 鋼材のことで素線を撚り合わせた鋼材に張力を掛けておいてコンクリートを流し込んで固化した後で張力を緩めるとコンクリートに圧縮力が作用して、引張に弱いコンクリートの弱点を補うもので、コンクリート構造物の設計・製造に変革をもたらした。

PC 鋼材の用途としては、交通分野では道路橋・鉄道橋・トンネル・軌道など、建築分野では、建物の他に吊り屋根・タンク・プールその他幅広い構築物に用いられている。

#### 5. 工場見学

ワイヤロープの製造において特に重要な工程は

- ・伸線：引き抜き加工等で素線を製作する。
- ・撚り線：伸線を巻きつけてストランドを製作する。
- ・製綱：ストランドを巻きつけてロープを製作する。
- ・品質保証試験

の4つであるが、この全てを見せていただいた。

技術スタッフの中村謙様と西井裕樹様の案内で工場建屋内を見学した。全員ヘルメット着用で、日常生活用のメガネを必要としない見学者は保護メガネ着用であった。見学ルートは検査棟→端末加工棟→伸線棟→撚り線棟であるが、撮影は許可された場所のみであった。



写真2 ワイヤ撚り線機を見学する

(撮影：24/11/20, 寺島俊之)

検査棟では、強度試験設備によるロープ破断の実演を見学できたこと、および端末加工棟では手作業でロープの端をリング状に加工する工程を見せていただいたことが特に印象に残った。



写真3 ワイヤロープの破断試験

(撮影：24/11/20, 寺島)

#### 6. 質疑応答

会社概要と技術の説明時と見学後の2回にわたって活発な質疑応答が行われた。

クレーンなどで吊荷を吊り上げる際、吊荷が回転することがあるとの説明に対して、その理由と防止法についての質問が出た。素線やストランドを撚って成形しているロープの性質と回転が発生する機構および回転が生じ難い非自転性ロープの構成、メカニズムなどについて丁寧な説明が行われた。

また、ワイヤロープは途中で継ぐことはあるのか、最大の長さや重量はどの程度かと言った質問もあった。これについては継ぐことはなく、最長17,000m程度、重量は最大90トン程度であるが、製造設備の容量で決まるとの答えがあった。

社会経済状態とワイヤロープ出荷量の関係、国際競争力などについての質問もあった。

輸出量が為替レートと相関関係があること、景気の影響は1~2年後に表出しやすい等、業界の特徴を話して頂いた。中国、韓国、台湾の追い上げがあるが日本としては高付加価値の分野を開拓して量から質への転換が求められていると感じた。

今回の見学会の開催にあたり、森啓之様ならびに羽木克昌様には大変お世話になりました。特に、事前に当方から出来れば知りたいと考えている事柄のリストを提示していたが、その殆どに丁寧にお応えいただいた事に厚く御礼申し上げます。

また、工場内を案内頂きました中村様と西井様にも厚く御礼申し上げます。

#### 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねるアジア・アフリカ・オセアニアの橋』

(編著、出版：本会会員 中元雄治)

今回は「絵葉書で訪ねる橋」シリーズの海外編の3冊目、このシリーズの12回目で最終版である。

主に編著者が所蔵する絵葉書により、アジア・アフリカ・オセアニアの橋の絵葉書260葉を掲載した。

当該地域は18世紀末から20世紀半ばまで植民地となっていた国が多いことから占領国が制作されたものが多い。今回は日本と関係が深い、中国の橋の絵葉書が中心である。

参考として中国の古代・中世の橋についての解説や、一部に書籍からの画像を転写して歴史的で独創的な橋を紹介している。

(A4・44 ページ、フルカラー、2024 年 12 月 15 日発行)

代金 (1 部) : 1,100 円, 送料 250 円. 支払方法: 切手  
申込・問い合わせ先: [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp



### 学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2024年9月分のアクセス統計(クローラーによるアクセスを除外)の概要です。

- 2024 年 10 月 (公開論文数: 26) :  
書誌事項へのアクセス数: 合計 233 回  
全文 PDF へのアクセス数: 合計 346 回  
(アクセス数が最も多かった論文: 書誌事項; 37 回, 全文 PDF; 67 回)
- 2024 年 11 月 (公開論文数: 26) :  
書誌事項へのアクセス数: 合計 189 回  
全文 PDF へのアクセス数: 合計 452 回  
(アクセス数が最も多かった論文: 書誌事項; 43 回, 全文 PDF; 148 回)
- 2024 年 12 月 (公開論文数: 26) :  
書誌事項へのアクセス数: 合計 243 回  
全文 PDF へのアクセス数: 合計 579 回  
(アクセス数が最も多かった論文: 書誌事項; 63 回, 全文 PDF; 149 回)

### 2024 年度第 4 回役員会議事録

日時: 2024 年 11 月 6 日(水), 19:05~20:15, オンライン

参加者: 中山会長, 岡田副会長, 貝柄幹事, 寺島幹事, 二階堂幹事, 溝口幹事, 若林あかね

議事:

1. 前回役員会議事録の承認
2. 2024 年度年次大会
  - 日時: 12 月 7 日(土). ハイブリッド方式で開催, 会場: 尼崎市立歴史博物館, 講演: 桃谷和則氏 (尼崎市立歴史博物館), 特別講演: 溝口孝遠氏 (会員), 研究発表: 甲南大学経営学部ゼミナール生, 連名者: 平野恭平氏 (会員), 見学先: 地域研究史料室「あまがさきアーカイブズ」
3. 見学会
  - [前回見学会]  
「神戸灘区の歴史的建造物と鉄道・産業遺産の見学会」, 参加者数 15 名.
  - [次回見学会] (確認)  
見学先: 神鋼鋼線工業(株) 二色浜工場. 開催日: 11 月 20 日(水), 集合: 南海本線「貝塚」駅・改札口.
4. 2025 年度総会開催・議案議決方法  
開催日: 2025 年 4 月 12 日(土)か 19 日(土), 13 時 30 分開始. ハイブリッド方式, 書面議決, 役員異動: 改選 1 名(監査; 瀬川健氏), 他は再任.
5. 学会誌 19 号原稿  
申込締切日: 論文(査読付); 2024 年 12 月 31 日, 論文以外; 2025 年 2 月 28 日.
6. 学会誌 18 号原稿  
和田康由氏(講演記録, 受領済み), 久岡会員(講演記録, 受領済み), 白木会員, 中山会員
7. 学会誌電子ジャーナル公開(報告)
8. ニューズレター141 号  
11 月上旬に発行予定.
9. 調査・研究について(報告)
10. その他  
金網会社, 堺煉瓦会社, 旧摩耶観光ホテルについて意見交換.  
次回役員会(オンライン): 2025 年 1 月 15 日(水), 19:00~

### 退会者 (敬称略)

若林 あかね

2025 年 2 月 20 日発行  
編集 近畿産業考古学会 編集委員会  
発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦  
URL: <http://kinias.jp>  
事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号  
大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付  
Tel: 06-6381-8434 (代), Fax: 06-6382-4363 (代)  
E-mail: [kinias-ec@nifty.com](mailto:kinias-ec@nifty.com)  
会費納入先(郵便振替)  
口座番号: 00950-9-150085, 加入者名: 近畿産業考古学会